

1. 活動日時

令和5年5月8日(月)7:15-16:00

2. 活動場所

石川県珠洲市避難所（正院小学校）、正院町周辺の在宅避難者宅

3. 被害状況

(5/8 石川県における 8:30 現在、消防庁災害対策本部資料第12報)

- ・人的被害：死者1名、重傷2名、軽傷31名
- ・住宅被害：全壊3棟、一部損壊2棟（珠洲市の住宅被害はこれ以外に少なくとも349棟）

4. 天候

雨のち晴れ 最高気温14℃ 最低気温7℃

大雨警報は午後に解除、土砂警戒レベル2相当発令中

5. 活動の実際

7:15 輪島市ホテル出発

9:00 保健医療福祉調整本部会議に参加した。

【先日の課題共有】

- ・支援物資要請（トイレトペーパー、消毒用物品等）
- ・避難所の配食については管理栄養士が対応
- ・入浴ニーズの対応を検討
- ・レスパイト、ショートステイなどの調整が必要な避難者の調整
- ・避難所2ヶ所の継続に関する医療支援

【医療班の役割分担】

- ・避難所での健康管理及び環境調整班→災害看護学会、珠洲市保健師、珠洲市総合病院など
- ・巡回班→県・市保健師、ケアマネ、災害看護学会、外部NGO看護師など

10:00 避難所支援と地域巡回の二手に別れて活動

【避難所支援班】

珠洲市総合病院看護師、珠洲市保健師とともに以下環境整備について検討しながら実施した。

1. 段ボールベッドの転倒リスクアセスメント（手すり設置、入口段差など）
2. 退去時のテント清掃方法について
3. トイレ掃除、床掃除、玄関スリッパ及び食事テーブルの消毒、定期的室内換気について
4. 健康相談表の管理、情報共有方法について

【地域巡回班】

在宅避難者の状況把握のため、県保健師と隊員2名で対象者3件を訪問した。訪問時の確認内

容は、福祉課の準備した「訪問ヒアリング記録シート」に沿って、災害前後の健康状態、生活環境の変化、家族支援の有無について聞き取りした。訪問した A 氏 80 歳代女性は、ゴールデンウィークで帰省していた息子と被災した。身体の外傷などはなかったが自宅の被害が大きく、玄関のガラス、天井、神棚、壁の損壊、タンスや荷物が散乱している状況だった。生活空間は片付けていたが、他の 10 部屋などの片付けや整理、修繕を希望されていたためニーズを保健師へつないだ。災害前と比べ健康面の変化は見られなかったが、2 名に関しては足腰が弱く、地震の際に転倒の可能性が危惧された。

13:30 支援活動終了

15:00 現地移動用レンタカー調整

16:00 ホテル到着

6. 考察

本日午後、雨も上がり大雨警報も解除されたが、依然として土砂災害の警戒レベルは継続しており、今後も引き続き二次災害に注意する必要がある。避難所は 14 ヶ所から 10 ヶ所に集約され、避難者も初日に比べ徐々に減少傾向となり、一番多かった正院小学校では 70 名から 11 名に減少した。しかし、修復の目処が立たない被災者や在宅避難者は今後も避難所を利用することが考えられる。また、避難所間の距離的な問題から集約も容易でないことが考えられる。そのため、仮設住宅やみなし仮設に移行するまでは継続的な避難所支援が必要であると考ええる。

在宅訪問では、「高齢なので避難所まで行けない。壁が崩れていても生活できるからこのままでいい。」という方がおられ、避難したくてもできない要配慮者を取り残されてしまう恐れがある。また、独居の要介護状態の方の中には、家屋の状況を把握することや困っていることなど、ニーズを表出することができないことも考えられる。したがって、独居や高齢者世帯の要介護・要支援者に対する早急な被災後のニーズの把握が重要であり、今後も避難所支援と並行して在宅避難者の聞き取り調査を行い潜在的なニーズを拾っていくことが必要であると考ええる。

7. 課題

- 1) 主となる避難所 2 ヶ所（正院小学校、蛸島公民館）の避難者の健康管理と環境調整。
- 2) 在宅避難者への迅速なニーズ調査（特に、要支援者以上の独居・障害者・障害者を持つ家族、介護認定を受けているがサービスを利用していない方など）と福祉サービス等への繋ぎ。
- 3) 災害関連死予防に向けた、全戸訪問のための継続的なマンパワーの確保。

8. 参考写真



プライベートエリアのテント内



片付けの目処が立たない被災者宅の様子



巡回訪問後の情報共有